

2013年12月8日（日）

東京都鍼灸師会

「先生！息苦しいです。何ですか？COPDの診方と鍼灸治療について」

先生方、始めまして。

今回、私が講演をさせていただきます内容は「慢性閉塞性肺疾患(COPD)を鍼灸でどうやって診ていったらいいのか？」です。

慢性閉塞性肺疾患(COPD)は労作時の呼吸困難のため、日常生活動作や QOL (Quality of Life)、社会生活などの低下を招き、本邦での有病率は 530 万人に至ると推計されています。今後さらに有病者数は増加すると推察されています。

現在 COPD に対して、薬物療法や酸素療法、呼吸器リハビリテーションを中心に行われていますが、臨床的に十分満足できる効果を得られているとは言いがたいのが現状です。これらの治療方法は、全て完全ではないため、そこを補完する必要があると考えられます。

COPD は気管支や肺胞の脆弱化に伴い、運動時には気管支の閉塞が認められ気流が低下します。そのため呼吸困難が発生し過度な呼吸運動から呼吸に関係する筋の疲労や筋緊張を起こしています。また、呼吸困難のため食事量の低下に加えて安静時のエネルギー消費量が増大しているため栄養低下から体重減少が認められます。この体重減少が患者の予後に直結するため、体重減少を食い止める必要があります。さらに、気道上皮の脱落などから呼吸器感染症に罹患する割合が非常に高いため、感染予防に努める必要があります。

一方、鍼灸治療には筋緊張緩和や筋疲労の改善効果や気管支拡張作用などの効果の他、消化管の蠕動運動を調整することが期待出来ます。

我々のグループでは、COPD に対して鍼灸治療の臨床研究を行った結果、COPD の主訴である労作時の呼吸困難の改善が認められ、さらに呼吸機能や呼吸筋力、栄養状態などの改善も認められました。

今後、鍼灸治療が COPD 治療のプログラムの一つとして位置付けられる可能性もあり、COPD 患者の労作時呼吸困難の改善に貢献できると考えられます。そこで、本日は COPD の基本的な診方から鍼灸治療の方法までをお話しさせていただきたいと思っております。